

八戸

八戸市の八戸学院大学短期大学部（杉山幸子学長）はこのほど、同市の白浜海岸で砂の像を制作する「砂浜彫刻実習」を行った。幼児保育学科1、2年の学生ら約140人が参加。保育者を目指す立場として、幼児教育に活用される砂遊びを自ら体験しながら、学生同士の交流も楽しんだ。

砂遊びは子どもたちの創造性や協調性などを育むのに適しているとされ、学生らの実習は2006年度から行っている。

新型コロナウイルス感染症の5類移行などを受け、さまざまな対面活動が活発化していることにちなみ、今年のテーマは「会」。学生たちはゼミ単位に分かれ、スコップやバケツを使いながら、向き合う横顔や握手、カメラ、誕生会のケーキなど、それぞれの題材を基に砂の像を制作した。

同学科1年の太田彩夢さん（野辺地

創造性育む砂遊び「学ぶ」 八学短大・幼児保育学科

町出身）と2年の金子瞳さん（岩手県普代村出身）は「立体的に作るのが難しかったが、みんなで協力しながら楽しく作業ができた」「砂でさまざまな形を表現できることを改めて体感できた」と語った。

系列校高大連携事業の一環として、八戸学院光星高校の生徒約40人も参加した。（白鳥遼）



砂の像の制作に挑戦する学生ら